



国内5世界自然遺産に見る自然と社会の共生と未来に残すべき人類の遺産

世界自然遺産5地域会議と万博参加



- 世界自然遺産は地球上の貴重かつ典型的な自然地域を登録して保護するもので、世界には231の登録地域（2025年1月現在）があります。
- 日本で登録された5つの地域は、自然保護のために独自の工夫を重ねてきました。またわが国の国立公園は、自然保護と暮らしの調和を目指してきたことをその特徴としています。
- 令和5年（2023年）1月、関係22市町村と2公益財団法人が「世界自然遺産5地域会議」（以下「5地域会議」という。）を発足させました。
- 5地域会議では、全世界に対して日本の世界自然遺産への理解を深めるとともに、「共生」や「環境文化」という日本型自然保護の考え方や仕組みについて発信することを目指しました。
- 5地域会議では、大阪・関西万博への参加を決めて準備を進め、2025年5月6日、6月5日の両日、万博会場内でイベントを実施しました。

①テーマウィーク催事「自然保護と暮らしを両立させる取り組みの深化に向けて」

●2025年5月6日、3グループ共催によるテーマウィーク催事「『地球市民』が実現する持続可能な社会の提言」の1セッションに参加。5地域から、産官学民の関係者代表が、一堂に会し議論しました。

●人口減少や産業の停滞、外からの観光への圧力などの問題を抱えながら、世界遺産として評価された傑出した自然の保護にも取り組んできました。



●ここでは、「自然保護と暮らしの両立」をめぐる現在各地域が共通して直面している課題について、先進事例の報告を受けながら、様々な立場と観点から意見交換を行いました。



パネルディスカッションでは、西表、知床のほか、白神山地、小笠原、屋久島、奄美、と異なる地域から、また**行政、地域の観光関係事業者、支援企業、と異なる立場で参加した関係者**が、世界遺産のインパクトと自然保護と暮らしを両立させる取り組みについて意見交換しました。

②一般参加催事「千の自然・千の時間——私たちと世界自然遺産5地域」

●6月5日には、1800人収容のEXPOホール「シャインハット」で1日がかりの催事を開催しました。ホール内に展示コーナーを設けるとともに、ステージでは多彩なプログラムを展開、それぞれの視点から5地域が育んできた「環境文化」を示しました。

催事テーマ	千の自然・千の時間——私たちと世界自然遺産5地域	
ステージプログラムの構成	(1)世界自然遺産と私たち—みつけた！自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ	遺産地域に住む子ども作文コンクール代表作品発表
	(2)日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」に出会う	大型映像とトーク
	2-1. 5地域紹介	
	2-2. 5地域で生まれ育まれた芸能・文化の出合い	芸能パフォーマンス
展示コーナー	(3)日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」を未来へ—世界自然遺産を引き継ぎ活かす、共生の理念—	国際シンポジウム
	(4)クローージング	2日にわたる催事の振り返りと5地域から国内外へのメッセージの発信
	(5)5つの環境文化の展示・体験	【ホール内多目的室2室を活用】

●主な登壇者プロフィール

有蘭 由美子 Yuki Nishimura
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

山根 希一 Naoki Yamaguchi
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

有蘭 由美子 Yuki Nishimura
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

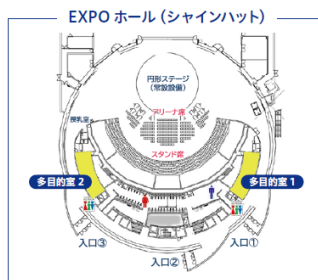
山根 希一 Naoki Yamaguchi
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

有蘭 由美子 Yuki Nishimura
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

山根 希一 Naoki Yamaguchi
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

有蘭 由美子 Yuki Nishimura
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長

山根 希一 Naoki Yamaguchi
行政・観光関係事業者
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長
鹿児島県観光振興局 企画・広報課長



「千の自然 千の時間」は
私たちと世界自然遺産5地域
YouTube 配信されます。

日本から世界から
ご視聴おながいします。
<https://youtube.com/live/mR4VRR3yT4E7feature=share>

鹿児島県 YouTube アカウントページ
ライブタグからもご覧いただけます。
鹿児島県観光振興局 YouTube チャンネル
鹿児島県観光振興局 YouTube チャンネル

②一般参加催事 「千の自然・千の時間 —— 私たちと世界自然遺産5地域」

展示コーナー

- 各地域がそれぞれテーマを設定して制作し、持ち寄った資材で、自然や環境文化の特徴を紹介。



VRによる屋久島体験も

②一般参加催事 「千の自然・千の時間 —— 私たちと世界自然遺産5地域」

プログラム① 子ども作文コンクール

- 子どもたちの作文コンクールで5地域代表に選ばれた優秀作品を発表し、作者である子どもたちへの授賞式を実施。
- 会場では、作品の朗読や作者へのインタビューが行われました。
- コンクールは、自然と地域社会を守る次世代の育成となることも期待しています。



- オープニングとともに、世界自然遺産紹介の大型映像を上映（提供：TBSテレビ番組「世界遺産」）

②一般参加催事 「千の自然・千の時間 —— 私たちと世界自然遺産5地域」

プログラム② 日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」に出会う

- 5つの地域ごとに、大型自然映像を上映後、各地域にゆかりのある人々が地域の特色や魅力、取組内容等を紹介しました。
- 「5地域で生まれ育まれた、様々な芸能・文化の出会い」をテーマに、各地域の歌や踊りのパフォーマンスが繰り広げられました。



プログラム③ 国際シンポジウム

- 山極壽一氏がモデレーターとなり、当日の各セッションへの感想を述べあうことから始めて、世界自然遺産の将来についての議論が行われました。
- 世界の有識者が、日本人が培ってきた千の自然・千の時間を捉える感性の大事さと遺産地域が持つ価値について、言及しました。



プログラム④ クロージング

- 最後のセッションでは、今回の催事を推進してきた関係者がそろって登壇し、挨拶と取りまとめを行いました。
- 締めくくりに、有働由美子さんにより「**大阪・関西万博 世界自然遺産5地域会議メッセージ**」が読み上げられました。

国内5世界自然遺産に見る自然と社会の共生と未来に残すべき人類の遺産

世界自然遺産5地域会議と万博参加

万博参加事業の**成果と展望**についてまとめると……

5地域会議としての総括 (構成員から見て達成できたこと)

- ① 5つの地域間の連携、輪が広がる
- ② 世界自然遺産地域がもつ共通の強みや課題等を共有
- ③ 幅広い来場者に対し各地域の魅力や取組内容等をアピール
- ④ 5地域からのメッセージを国内外に発信し、広報周知
- ⑤ 企業・団体、関係機関との連携・協力関係を構築
- ⑥ 地域の子供達や住民が自分達が住む地域の価値を再認識

『地球市民』が実現する持続可能な社会の提言 というテーマから見た成果

各地域が抱える地域課題や独自に工夫を重ねてきた活動事例を共有し、首長、実務担当者、学者等の様々なレベルで自然保護と暮らしの両立に向けた協議を推進

人類共通の守るべき遺産として国際的に認められた各地域では、**地球市民としての誇りの芽生えや産官学民の協働による地域課題解決に向けたムーブメント**が見られた一方、**グローバルな価値と多くの人の流入により、オーバーユース、動植物との軋轢等の保全上の課題が生じていることや、日本人が大切にしてきた自然観や地域独自の生活文化が失われていく懸念があることも再認識**

保護と暮らしの対立構造を乗り越え、相乗効果で双方が良くなっていく仕組みづくりとそれを知らせる重要性を認識

今後、日本が世界に貢献できる一番のトピックとなるとともに、“持続可能な未来社会”の実現に寄与できることを確認

大阪・関西万博 世界自然遺産5地域会議メッセージ



(前文)

私たちは5月6日と本日6月5日の両日、ここ大阪・関西万博を舞台に、日本の世界自然遺産5地域の特色や魅力を、音や映像、議論をとおして照らし出すことを試みました。

閉会に当たって、私たちから国内外の皆さんに、ぜひお伝えしたいメッセージがあります。

屋久島、白神山地が遺産登録された約30年前、生態系や生物多様性という新たな価値が日本に浸透し始めるとともに、日本国内からは「共生と循環」や「環境文化」という本来の日本の自然観に根ざした奥行の深い考え方が発信されました。2005年の愛・地球博（愛知万博）では「自然の叡智」をテーマに掲げ、具体的に実現の方向性が示されました。

その後世界は大きく変化し、地球環境は危機を迎え、分断が深まるなど、今、人類は重要な岐路に立たされています。近年ではこれに対し、人類の生存や社会経済の基盤である自然の劣化を止め回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」がグローバルな目標となってきています。

今回全員で確認したように、日本の世界遺産地域では長らく、自然と共生し、自然を守り育てることは日々当然のことでした。世界の価値観が日本の世界遺産地域に追い付いてきた今日、私たちは自然保護と経済的活動を調整しさらには好循環を生み出していけるよう挑戦を続けており、国民全体や国を超えた連携と協働がより重要となっています。この取り組みを先進的モデルとして日本から発信できれば、岐路に立つ人類が選択を間違わずに行動する一助になると期待します。

今回のメッセージは、今後30年で人類が目指すべきビジョンを考える際、あらかじめ心得ていただきたい基本認識を明文化するものです。本メッセージに対して、国内外から、積極的な応答があることを期待しています。

(本文)

- 一．この地球に生まれたひとつの生命は、40億年をかけて進化と絶滅を繰り返し、約1千万種もの多様な生物となった。長いあいだ人類は、いきものたちが奏でる生態的リズムに寄り添うことで、多様な環境文化のハーモニーを響き渡らせてきた
- 一．近代におこった科学技術の革命的進展は、人類に高い生産力をもたらしたが、そのことが自らの存立基盤である自然環境を脅かし、今日の危機をもたらす諸刃の剣であることに無自覚であった
- 一．いま人類は、一人ひとりが自然に対する美意識をもって、何をなすべきかをもう一度考え、お互いの知恵を結集していくことが求められている
- 一．私たちはこれまで、日本の5つの世界自然遺産地域の数々の取り組みと課題を共有し、解決に向けた協力を約してきた。このことを世界に発信し、さらなる協力の環を拡げることで、いきものたちと人々が新たな環境文化のハーモニーを奏でる未来に向けた、大きな一歩としていきたい

(これを、本日の万博、世界自然遺産5地域会議メッセージとする)